

授業概要

将来的に、教育・保育の現場において十分に対応できる能力を身に付けることが重要である。このような最終目的に沿うために次のことを具体的な狙いとする。

教職課程・保育士養成課程の履修やさまざまな活動を通して、教員・保育士として最小限必要な資質能力が形成されたかという事について確認する。そのために、教員・保育士になる上で自己にとっての課題を自覚し、不足している知識や技能を補い、その定着を図る。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	保育・教育現場での子どもへの効果的な対応について
第3回	家庭との連携による総合的な保育・教育の現状と教師に必要とされること
第4回	地域との連携による総合的な保育・教育の現状と教師に必要とされること
第5回	最近生じている問題と対応について
第6回	保育活動における表現としての音楽活動のあり方
第7回	保育・教育現場で役立つコード伴奏の演習
第8回	保育・教育現場で役立つ様々な楽器の紹介と奏法、音楽でつなぐ人間関係
第9回	音を楽しむ音楽活動と即興演奏・全員での器楽アンサンブル
第10回	保育者に必要な傾聴法
第11回	子どもの強みを発見するワーク
第12回	気になる子への対応
第13回	保護者対応と自己理解
第14回	外部講師による講話
第15回	全体のまとめ

到達目標

教育・保育士として求められる資質・能力について次のことを到達目標とする。

1. 使命感や責任感，教育・保育的愛情
2. 社会性や対人関係能力
3. 子ども理解や学級経営
4. 教科・保育内容などの指導力

履修上の注意

1. 3名の教員のそれぞれの専門性に基づいた講義・演習であり、保育・教職実践の目的に関わる重要な内容であるのでしっかりと受講すること。2～5回，6～9回，10～13回，各4回ずつを3グループに分けてオムニバス方式で受講する。
2. 出欠席は実習に準じる扱いとなる。
3. 受講の姿勢として，積極的な受講態度で望むこと。

予習・復習

シラバスに基づき次回の内容についてはあらかじめ下調べをしておくこと。

評価方法

レポート提出 50%，受講態度(積極性)50%に基づいて評価する。

テキスト

特には指定しないが，必要に応じてその都度指示する。

授業概要

教職課程履修者で、免許取得に必要な科目をすべて修得し、かつ教育実習を終了した学生を対象とした授業です。毎回の授業は、3つのグループに分け、それぞれ課題を追究し、全体で交流する方法をとるため、3名の担当者で行います。

教職課程の各科目の履修により獲得した専門的知識や技能、及び教育実習の体験を踏まえ、教師としての資質・能力の総体について考え、それを身につけていく授業です。また教育現場で対応できる実践的なスキルの獲得も目指します。授業は講義、演習のほか、フィールドワーク等も取り入れます。

毎回の授業では、各自が設定したテーマについて探求した結果の発表を行います。

授業計画

第1回	教職実践演習の趣旨、授業計画の説明、履修カルテの記入
第2回	教師への歩みと足跡 自らの生い立ちの記録
第3回	子ども理解の方法と実際① 事例から読み解く
第4回	子ども理解の方法と実際② 具体的方法と実際
第5回	カリキュラムを考える① 学校教育目標から教育課程へ
第6回	カリキュラムを考える② 教育課程から授業へ
第7回	教師としての責任と希望（ゲストティーチャーによる）
第8回	学級づくりの方法と実際① 学級経営の基本
第9回	学級づくりの方法と実際② 学級経営事例研究
第10回	問題行動の理解と対応① 問題行動の考え方と児童の捉え
第11回	問題行動の理解と対応② いじめの問題事例
第12回	授業の実際 授業と授業記録
第13回	授業の実際 授業技術
第14回	地域とのつながりと安全管理
第15回	まとめ
第16回	試験

到達目標

以下の各項目について、小学校教員としての資質・能力を向上させることを目標とします。

- ・教員としての使命感や責任感、教育的愛情
- ・社会性や対人関係能力
- ・児童理解や学級経営等に関する事項
- ・教科の指導力(授業構成・展開力)

履修上の注意

卒業後、小学校教員として働こうとする強い意志を持って、受講学生自らの教育実習での体験を想起し、本授業を組み立てていくという心構えで授業に臨んでください。遅刻・欠席はやむを得ぬ事情のない限り認めません。

予習復習

毎時間、次時の課題を出します。必ずそれをして授業に臨むこと。

評価方法

授業ごとに提示する課題、レポート、授業実践等の授業への取り組み 50%試験 50%

テキスト

『教職実践演習 これまでの学びと教師への歩み』梅澤実編著 わかば社